

News IR

IR（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松学舎大学では、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2019年度 1号（通巻第7号）

Contents

- ◆ 「学生の実態・満足度調査」の結果概要 1
- ◆ 二松学舎憲章 4

◆ 「学生の実態・満足度調査」の結果概要

2018年12月～2019年2月にかけて、本学の1年次・3年次・4年次生を対象として、学生の実態・満足度調査を実施しました。

調査は、大学生活全般に関する大項目10の設問における5段階等の選択回答（例：「頻繁にした」～「全くしなかった」）と3項目の自由記述で答えてもらいました。

▶ **本調査の実施目的**

- ① 学生の本学の「学び」に対する満足度を定量的に把握すること。
- ② 他大学と比較することで、本学の特徴を定量的かつ可視化して認識すること。

調査回答数は、下記のようになります。

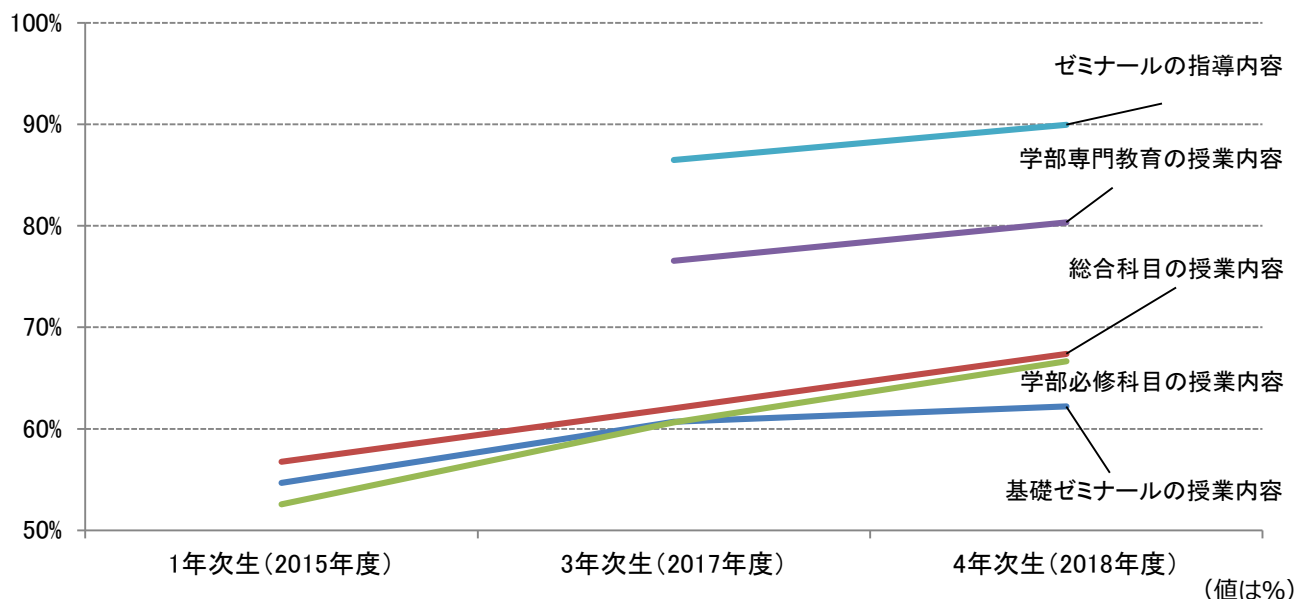
▼ 回答数

| | 文学部 | | | 国際政治経済学部 | | その他 | 合計 |
|----|------|-------|------------|----------|--------|-----|------|
| | 国文学科 | 中国文学科 | 都市文化デザイン学科 | 国際政治経済学科 | 国際経営学科 | | |
| 1年 | 261 | 106 | 54 | 151 | 85 | 22 | 679 |
| 3年 | 217 | 91 | — | 153 | — | 5 | 466 |
| 4年 | 219 | 104 | — | 121 | — | 2 | 446 |
| 全体 | 697 | 301 | 54 | 425 | 85 | 29 | 1591 |

● 2015年度入学生の教育内容等満足度の経年変化

- ▶ 本学では、「学生の実態・満足度調査」を2015年度から実施しています。2015年度に1年次生として入学した学生が、2018年度には4年次生となり、この3月に卒業を迎えました。2015年度入学生の経年変化として、入学後の学生の実態を把握するとともに、大学の教育成果や、本学の抱える課題等の検証材料として、各種委員会等で報告・検討しています。

▼教育内容等にどの程度満足していますか（『とても満足』・『満足』と回答している割合）。



- ▶ ゼミナールの指導内容や、学部専門教育の授業内容に、好感を持っていることが確認できます。また、総合科目・学部必修科目については、総じて右肩上がりとなっており、適切な教育課程編成が実現されていることが確認できます。

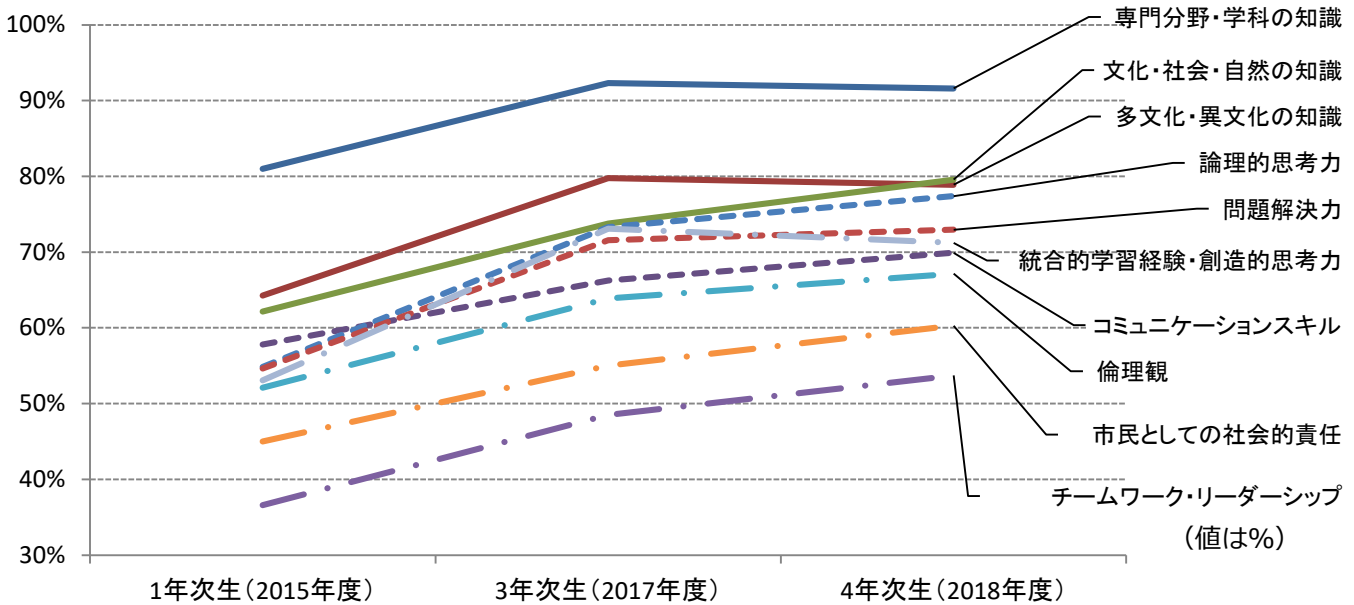
▼学生生活は充実していますか（『充実している』・『まあまあ充実している』と回答している割合）。

| | 1年次生 (2015年度) | 3年次生 (2017年度) | 4年次生 (2018年度) |
|----------|---------------|---------------|---------------|
| 国文学科 | 68.8% | 92.3% | 92.6% |
| 中国文学科 | 66.4% | 78.3% | 88.4% |
| 国際政治経済学科 | 58.8% | 79.6% | 89.4% |
| 全 体 | 65.2% | 86.0% | 90.8% |

- ▶ いずれの学科も、4年次生には、約90%の学生が充実感を以って学生生活を送っていることが確認できます。学生生活の充実度は、4年次生にかけて総じて右肩上がりとなっており、本学の教育・研究が納得感を以って受け容れられていることが確認できます。

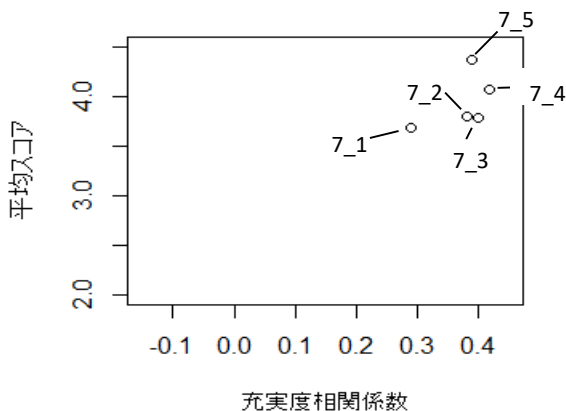
●2015年度入学生の学修成果の変化

▼入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化しましたか（『大きく増えた』・『増えた』と回答している割合）。



- ▶ 学士力項目と結び付けた場合、チームワーク・リーダーシップのレベルがやや低位であるものの、知識・理解を筆頭に、いずれも比較的高い増加レベルを実現していることが確認できます。
- ▶ また、いずれの能力・知識についても右肩上がりの成長を示しています。

充実度相関



【設問内容】

教育内容等にどの程度満足していますか

- 7_1 : 基礎ゼミナールの授業内容
- 7_2 : 総合科目の授業内容
- 7_3 : 学部必修科目の授業内容
- 7_4 : 学部の専門教育の授業内容
- 7_5 : ゼミナールの指導内容

- ▶ 上の図は、学生生活の充実度の設問と、教育内容等に関する質問項目との相関係数を横軸にとり、それぞれの設問の点数を縦軸にとったものです。相関が高い（右に行く）ほど、該当の設問内容と関係し合って「学生生活が充実している」と答えているとみることができます。
- ▶ 中でも、学部の必修・専門科目や、ゼミナールの指導といった本学の教育内容が、学生生活の充実度と大きく関係していることが窺われました。

- 「入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化しましたか」という問いに対し、4年時に『大きく増えた』・『増えた』と回答した割合と、1年時に『大きく増えた』・『増えた』と回答した割合の差分の順に、3位まで並べた結果は以下の通りで、学科の教育目標に沿った特性を示す結果となりました。

◆ 国文学科

- ①『日本の文化に関する知識』 ②『論理的思考力』 ③『情報リテラシー』

◆ 中国文学科

- ①『日本の文化に関する知識』 ②『市民としての社会的責任』 ③『文化・社会・自然の知識』

◆ 国際政治経済学科

- ①『論理的思考力』 ②『チームワーク・リーダーシップ』 ③『問題解決力』

- 「学生の実態・満足度調査」を通して、学部の必修・専門科目や、ゼミナールの指導により、多くの学生が充実感を持って学生生活を送っていることが確認されました。また、それぞれの学科における教育課程を経て、学科特有の「能力・知識変化」があることが確認されました。
- 今後も、「学生の実態・満足度調査」等の分析結果や、経年変化について検証を重ねることで、本学における教育効果の測定や課題の検証を継続していきます。

【二松学舎憲章】

<建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」の発揚に努めます。

<教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

<学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

<社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松学舎大学

大学改革推進部 I R 推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp